

肉眼に見ゆる星の話 (一)

伏見 吉田 源治郎

極めて不完全ではありますが、天界研究の初心の方々の御参考になれば結構だと考へ、星座の御案内に立つたわけです。私は主としてヘクター・マクフレーザー氏の「肉眼に由る實際天文學」に由つて本稿を綴りました。(二月末日……伏見町京町大黒にて)

春の星座

「星の數」——肉眼で見ゆる星の數は——尤も之れは土地の狀況、空氣の加減、肉眼の良否に大ひに影響せられるが——約七千と思へば間違はない。併し約半數は常に地平線以下になつてゐるから、時に見ゆるのは三千乃至四千弱である。

グールドといふ學者には、一時に七千程も見わたると云ひますが、餘程眼が良かったものと見えます。詳述すれば肉眼で見ゆる星は、六等星までであつて、次の通りであります。

一等星	約	二〇箇
二等星	約	五〇箇
三等星	約	一六〇箇
四等星	約	五〇〇箇
五等星	約	一七〇〇箇
六等星	約	五〇〇〇箇
總計	七千四百餘	

實を云へば、地上の萬物が荒涼とした冬期が天上では、一番輝やかしい星座の現はるゝ時期であります。然し初春とても、さう見棄てたものではない。

詩人テニスンが

輝やく水仙がしほむ頃

アウリガ

「馭者」をきらめく「雙子」をが

榮冠のやうに

西方低く

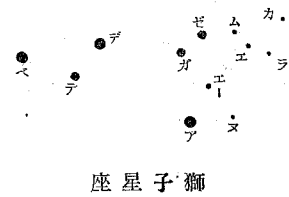
「オリガン」の墓場の上にかゝる

と歌つたのは三四月の頃のことである。

私はそれで——櫻や梅の花の美を無視はしないが——暫く目を春の空に擧げて、天上の美に打たれやう。

〔獅子星座〕春の星は、前述の通り、冬季に比べては、一體に光輝が薄い上に、まばらに散在してゐる。それで一寸初心の「星覗き」に失望を與へる、然し其中にも、一番分りやすいのは、レオ星座——黃道十二宮中の第五宿——であります。

北斗七星さへ知つて置れば、此星座を見出すのは、わけがない。北斗七星の「指さし」星の一つ、即ち尖端の大熊星座の星から同じ星座の、**ラ星**△星に一線を引きそれを真直にどこまでも延ばしていくと、圖の様な配置になつた星座に出逢ひます。これが獅子星座です。尤もこんな手数をかけないでも、春の



夜は心なく目を空に投げるならば、(其時間と月によつて位置は違つてゐるが)天頂の東か、西か、或は天頂に著しい星の一群のあるのをすぐ見分ける事が出来る。此星座は、二つの部分

から、成立つてゐます。右側の一群は、其格好からして、「鎌」と呼ばれてゐます。

左側のは、三つの星が、三角形をつくつてゐます。此二つの部分の間を、微光星が埋めてゐます。

鎌の部には、六つの主な星があります。鎌の切尖にあたる所の、星が、此星座の**ア**星で別名を、**レグルス**とも呼ぶが、一等星中では、影の薄い方の星です。**レグルス**の距離は、三五・一光年です。黃道の星宿が始めて配當された時、夏至の太陽の位置が、丁度此星座中にあつたものだから、其理由で、此星座が、著名になつたのださうです。

随分古くから、**レグルス**は知られてゐました。埃及の**トレミー**は、之を**バシリクス**と呼び、アラビヤ人は、「王者」星(**マリキイイ**)と名付けてゐました。

古代ペルシャでは、此星を、王家四星中の隨一に數へてゐました。**レグルス**が、此榮譽を荷つたのは、其固有の光度によつたのではなく、全く其境遇——位

置が好かつたお蔭であつたのでした。

一等星は、大方皆、其光度に於ては、レグルスに敗けるものは、一つだつてないのですから――。

ア星の直ぐ上は、**エー**星です、これは三等星、其次が、**ガ**星之は二等星です。

此**ガ**星は、連星です。望遠鏡ではよくそれが分ります。**ゼ**星は三等星です。

鎌の把手の所に位する**ム**星は四等星、其下の**エ**星は三等星です。**ホ**星の右側にあるのは、**ラ**星で此は五等星です。

ゼ星の南西の一點は、昔から天文學者の注意を惹いてゐる所です。此所から毎年十一月中旬に、流星が出現します。殊に、三十三年目毎には、夥だしく雨のやうに流星が降ります。(天界第一卷第三號四二ページ参照) 即ち此所が、獅子座^{レオニッツ}流星群の輻射點であります。

「鎌」の左側に、直角三角形をつくつてゐるのは**デ**、**テ**、**ヘ**の三星です、**ニ**星は丁度、直角三角形の座點に

なつてゐます。

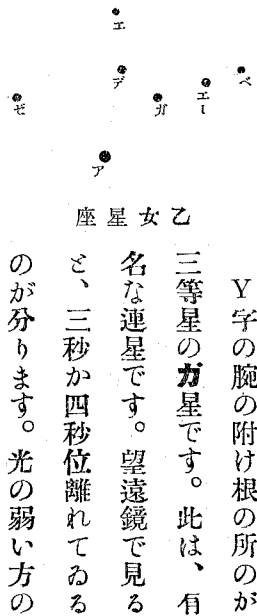
ベ星は、二等星で、しばぐアラビヤ名で、デネボラと呼ばれることがあります。

テ星は三等星、**デ**星は二等星です。

双眼鏡で覗くと、**ベ**星の周圍をいくつかの微光星が取巻いてゐるのが見えます。

乙女星座 春空の星座で、レオに次いで尤も著しいのは、**乙女座**です。**乙女星座**は、レオの左側の下部にある、大きな星の一群です。英字の**Y**が斜になつてゐるやうな形に、星が配列されてゐますから、容易く見分けがつかます。**Y**の幹は、**ア**星(別名**スパイカ**)と**ガ**星とが形つくつてゐます。**エー**星と**ベ**星とが、右の腕、**デ**星と**エ**星とが左の腕となつてゐます。**乙女座**の附近に、輝星が少いのと、割合に、此星座の各星が、輝いてゐるのとで、目に付きやすい。**Y**の底部の星即ち、**スパイカ**は、此星座中の最も光輝の強い星です。**スパイカ**は、一等星で、其色は、

青白色です。肉眼では、唯よく光つてゐると位しか、別に氣附きませんが、實は、此星は、望遠鏡で覗いても、區別のつかぬ位置に接近してゐる連星なのです。分光器で調べると、此スバイカには、一つの暗黒星の從者があることが分ります。此二星は、六千五百萬哩の間隔を保つて、一秒間に五十七哩の速力で、互に共同の中心を四日を週期として回轉してゐるのです。二星を合せて、我々の太陽の二倍半位の大きさです。これは太陽系では見られない現象です。二星のお互が同等の大きさなので、一方が他方を回轉するわけに行かないので、共同の中心を回轉してゐるわけなのです。



星は、其回轉に百八十五年を費すとのことであります。これは又スバイカとは型の異つた連星の一例です。

Y字の兩腕となつてゐる四星——デ、エ、エー、ベについては、その各々が、三等星であるといふ外格別に、記載する事柄もありません。

一つ記憶すべきは、此Yの兩腕と、獅子座のベ星との中間の區域が、天の河の極であると云ふことです。即ち天界の此領域が、天の河からの最遠の箇所であるとのことです。若しも、天界を一つの球に譬へますならば、そして天の河を地球の赤道になぞらへますならば、此部分は、其北極を含むことになります。で、天界の此區域は尤も星の稀な部分であります。

天文遇意

神戸 渡邊 定助

物干に上りて月と星見れば

少しは近く思はれて鳧